

# てだこ浦西駅交通結節機能強化（沖縄持続可能な交通環境構築推進事業）

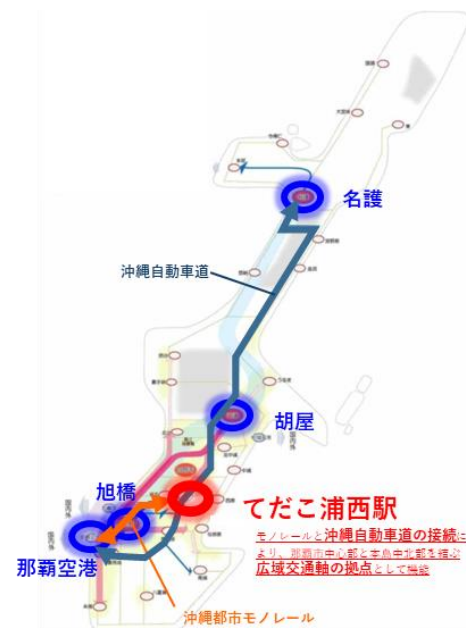
## 1. 事業概要

- 事業名：てだこ浦西駅交通結節機能強化
- 補助金名：沖縄持続可能な交通環境構築推進事業費補助金
- 事業期間：令和6年度～（継続中）
- 事業概要：てだこ浦西駅における乗換機能の強化・利便性向上・にぎわい創出等に向け、多様な意見を取り込みながら交通結節機能強化に関する検討を行う。



引用：ゆいレールHP

## ■本島の骨格を形成する公共交通体系



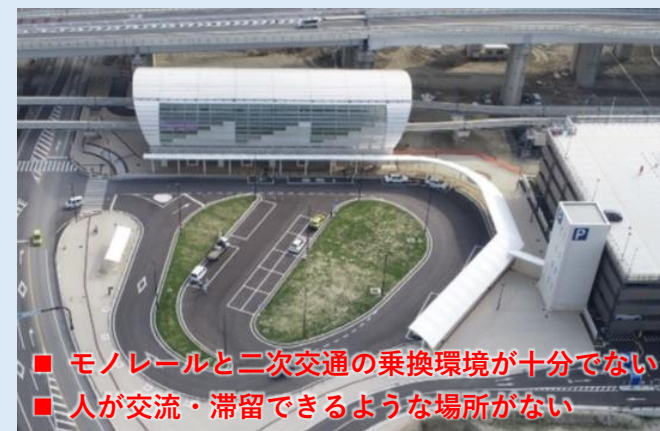
## 2. てだこ浦西駅の整備背景

- 沖縄都市モノレール終点のてだこ浦西駅については、沖縄自動車道との接続による広域交通軸の形成、本島中北部地域からの定時・定速性や時間短縮等の利便性向上を図る目的で整備された。

## 3. てだこ浦西駅の現状・課題

- 現状のてだこ浦西駅は、高速バス、路線バス等の二次交通の結節が十分とは言えず、駅で乗り換えられる移動手段も限定的であるため、駅における乗換機能の強化を図る必要がある。
- また、人が交流したり、滞留するような賑わい環境が整っていないため、駅横の高架下や交通広場の空間を活用し、賑わい・溜まり場などの施設の充実を図る必要がある。

## ■駅前交通広場の現状



- モノレールと二次交通の乗換環境が十分でない
- 人が交流・滞留できるような場所がない

4. 交通結節機能強化の整備方針（案）

➤ 令和6年度の検討において、関係機関等へのヒアリング・住民アンケート等により把握した課題等を踏まえ、以下3つの機能をベースとした整備方針（案）を作成。

交通（乗換）機能

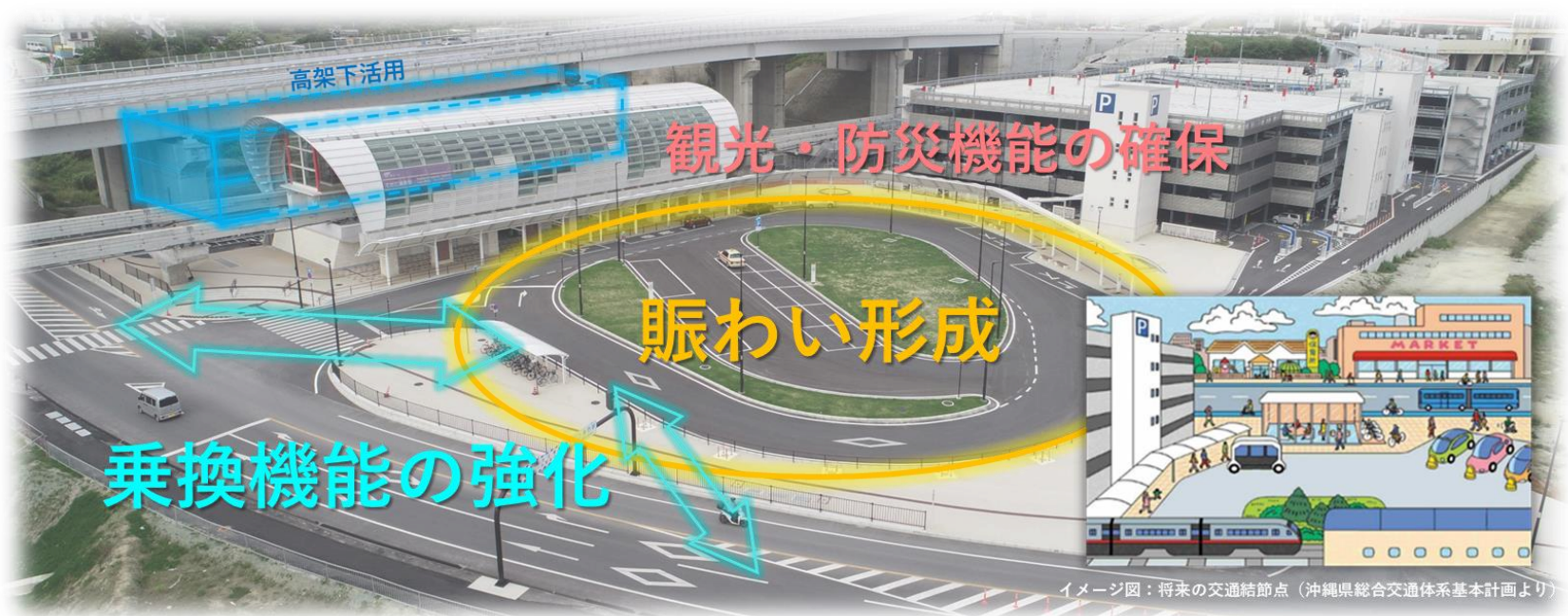
- バス（高速・路線）の集約・拡充
- 乗換案内の改善・強化
- 待合環境・モビリティの拠点整備
- P&R駐車場、駐輪場等の改善・強化

拠点形成機能

- 高架下や交通広場を活用した、賑わい・滞留空間の創出
- まちづくりとの連携を意識

ランドマーク機能

- 本島中北部圏域等への観光利用の経由地としてふさわしい観光情報発信機能の充実
- 駅等を活用した防災機能の充実



5. 今後の検討の流れ

- 令和6年度は、現状分析・課題把握等を行い、関係者へのヒアリング・住民等へのアンケート調査を実施し、関係者会議による意見交換も踏まえ、交通結節機能強化に関する**整備方針案を整理**した。
- 令和7年度は、より幅広かつ的確に意見を抽出する目的で、**住民等参加型のワークショップ等（PI）を実施**し、有識者及び交通事業者等も含めた検討会にて意見交換を行ったうえで、**交通結節機能強化整備計画（案）を作成**する。
- 令和8年度は、上記の検討を踏まえ、必要な機能において**実証実験等を実施**し、**交通結節機能強化整備計画を策定**する。

令和6年度

■ 整備方針（案）の作成

令和7年度

令和8年度

■ 検討会の設置

有識者、交通事業者、民間事業者、行政組織等の関係者からなる検討会を設置し意見交換を実施。

■ PI（住民等参加型）

住民や学生等によるワークショップや、アンケート等により幅広く意見聴取。

■ 実証実験の実施

2次交通等の試験的導入、憩いの場・デジタル案内板の仮設置など、必要な機能において実証実験を実施。

■ 整備計画の策定

PI、実証実験等を踏まえ、整備計画を策定。



学生ワークショップ（沖縄県事業例）



デジタルサイネージ案内（事例：岐阜駅）



にぎわいイベント（ゆいレール祭り）

令和9年度以降

■ 事業の実施・展開

事業の展開においては、役割分担等を踏まえ、各整備主体と連携した取り組みが必要。